

公益財団法人植村記念財団経営計画2018について（概要）

1 経営計画2018策定の背景

植村記念財団は、冒険家・植村直己の冒険精神「ウエムラ・スピリット」を永く後世に伝えるため、平成4年に板橋区によって設立され、平成24年には公益財団法人に移行した。しかしながら、補助金の削減や施設の老朽化、来場者の伸び悩みなど、植村記念財団を取り巻く環境は変わりつつある。そこで、その変化に対応し将来を見据えた事業運営をするため、経営の方向性と経営戦略を明記した経営計画2018を策定した。

2 策定の視点

- (1) 将来を見据えた事業運営
- (2) 経営改善の取り組みの推進

3 計画期間

平成28年度から平成30年度までの3か年

4 財政状況の推移

当財団は、財団の運用益と事業収益を活用しながら、事業を実施、運営している。過去5年の収支決算の推移については下表のとおり。

(単位：千円)

年度	収入	支出	収支差	期末残高	備考
23	53,125	48,657	4,468	542,503	
24	54,629	53,930	699	543,202	公益財団移行
25	50,915	50,593	322	543,525	
26	50,792	50,956	△164	543,361	
27	53,316	53,759	△443	542,918	(見込み)

5 経営戦略

(1) ウエムラブランドの確立と新たなチャレンジ

単年度の収支が赤字に転落し、板橋区への依存度が高くなっている現状を把握するとともに、より積極的な事業運営をする必要がある。そこで、ウエムラブランドの確立を目指し、新たな魅力発信を戦略的に展開する。

① 植村直己の業績についての展示公開

- ◇東板橋体育館との複合化を視野に入れ、ICT技術を活用した展示方法の導入など新たな取り組みの検討
- ◇クライミングウォールなど、他では体験できないアドベンチャースポットとしての拠点整備

◇受付業務を指定管理者と連携するなど、効果的な運営方法の検討

◇スポーツ施設である強みを活かした体験事業などの実施の検討

② 自然への関心を高めるための実体験事業

◇民間ツアーでは体験できないウエムラブランドの魅力を活かした事業や講座の検討

◇子ども向けの自然塾や大人向けアドベンチャー講座など、民間より安価で気軽に参加できる事業展開の検討

③ 収益事業

◇ウエムラブランドをPRした商品や企業とタイアップした山岳グッズの検討と販売促進

◇指定管理者と連携したブランドショップの設置の検討

(2) 組織の見直し

ウエムラ・スピリットを次世代に継承するため、持続可能な事業展開が可能な組織体制を見直す。

6 計画期間3カ年の事業計画

財団設立の理念を実現するため、平成28年度からの3年間に前項「5 経営戦略」に基づく事業を検討、実施、検証していく。